

**令和元年度 事務事業総点検シート(1)**  
**[平成30年度事務事業]**

<b>一般会計</b>		<b>事務事業分類</b>	<b>詳細点検</b>
<b>事務事業名</b>	障害者(児)短期入所緊急利用	<b>シート番号</b>	A 一般事務事業 11-154
<b>担当部署名</b>	健康福祉 局 障害福祉 部 障害者支援 課	<b>評価責任者(課長名)</b>	増田

**Ⅰ. 基本情報**

<b>基本情報</b>	1	堺市マスタープランの政策体系に基づく事業の位置付け	政策	1	暮らしの確かな安全・安心を確保します	後期実施計画の位置付け	
			施策	3	障害者等が自分らしく輝いて暮らせる地域社会の実現	無	
	2	事業開始年度	平成 16 年度		終了(予定)年度	— 年度	
	3	根拠法令等 (法令、条例、規則、要綱等)	堺市障害者(児)短期入所緊急利用支援事業実施要綱				
	4	関連計画	第4次堺市障害者長期計画				
5	事業実施の経緯	障害者(児)の家族が入院などの緊急の理由で在宅での介護ができなくなった際に、一時的に短期入所を利用できるベッドの確保が必要であったため、平成16年度から事業を開始した。					

**Ⅱ. 事業概要**

<b>事業概要</b>	6	事業の実施主体 (誰が実施しているのか。)	<input checked="" type="checkbox"/> 本庁 <input checked="" type="checkbox"/> 各区 <input type="checkbox"/> 出先機関 ( ) <input type="checkbox"/> 市外郭団体 <input type="checkbox"/> 地域団体・市民 <input type="checkbox"/> 民間企業・NPO <input type="checkbox"/> その他 ( )			
	7	事業の対象 (誰を、何を対象としているのか)	在宅の介護を受けている障害者(児)で、自立支援サービスにおける短期入所サービスの支給決定を受けているもの。			
	8	事業の目的 (どのような状況にしたいのか)	介護者の入院などの緊急の理由により、一時的に介護を受けられなくなった障害者(児)が、短期入所を円滑に利用することができるようにし、在宅で介護を受けている障害者(児)及びその家族の福祉の向上を図る。			
	9	事業内容 (スケジュール、実施方法・手段、事業ボリュームなど)	本市と協定を締結した社会福祉法人等の短期入所事業所において、介護者の緊急時に障害者(児)が短期入所により利用できるベッド(「緊急用ベッド」)を確保しておくもの。 本市は、緊急用ベッドの利用のなかった日について、協定を締結した社会福祉法人等に対して負担金を支払う。			
	10	直接実施以外の主な支出先	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> その他 ( ) 社会福祉法人 コスモス、社会福祉法人 障友会			

**Ⅲ. 投入量**

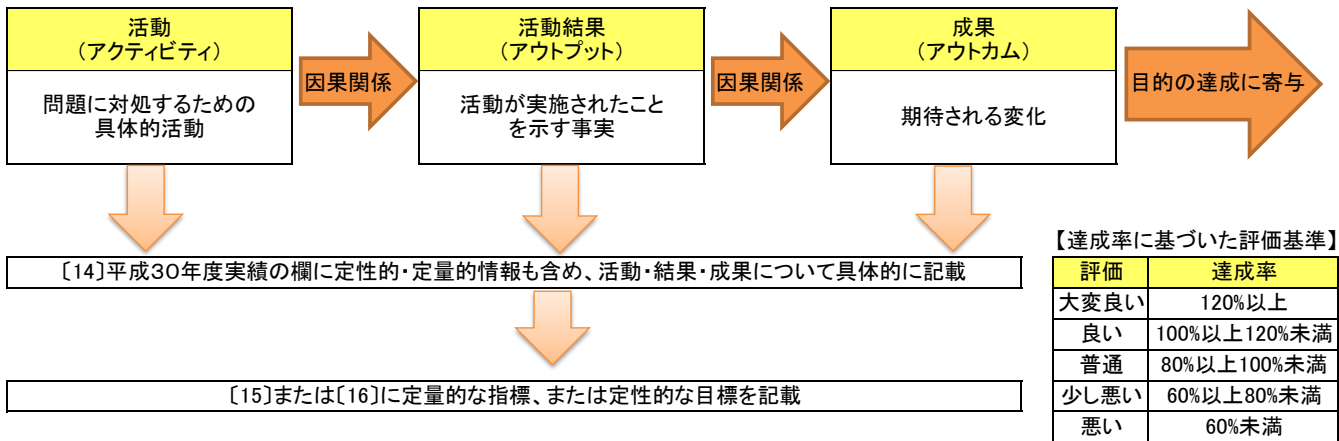
	項目	単位	H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R1年度予算	
<b>事業コスト</b>	11 事業費 (a)	千円	5,109	4,486	5,223	4,946	
	主な事業費内訳	負担金	千円	5,109	4,486	5,223	4,946
			千円				
			千円				
			千円				
			千円				
	財源内訳	国・府支出金	千円				
		受益者負担金(使用料、手数料等)	千円				
		市債	千円				
		その他( )	千円				
	一般財源	千円	5,109	4,486	5,223	4,946	
12	人件費 (b)	千円	820	820	820	810	
13	総コスト(c)=(a)+(b)	千円	5,929	5,306	6,043	5,756	

## 令和元年度 事務事業総点検シート(2)

事務事業名	障害者(児)短期入所緊急利用	シート番号	11-154
-------	----------------	-------	--------

### Ⅳ. 評価(測定・分析)》

#### ロジックモデルの考え方



#### 事業の活動内容や成果

		平成30年度実績					
活動実績と成果	14	障害者(児)の家族の入院等を理由とした緊急時で短期入所の利用を必要とする方への支援制度であり、平成30年度は延べ利用日数は121日、延べ利用者数は45人であった。					
	15	指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
		延べ利用日数	日	目標値	—	—	—
				実績値	131	205	121
				達成率	—	—	—
				評価	—	—	—
	算出方法・設定根拠など		事業の性質上、数値化した目標の設定は困難であるため、目標値は設定していない。				
	16	指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
		延べ利用者数	人	目標値	—	—	—
				実績値	43	55	45
達成率				—	—	—	
評価				—	—	—	
算出方法・設定根拠など		事業の性質上、数値化した目標の設定は困難であるため、目標値は設定していない。					

#### 業績の分析

	目標を達成できた、または達成できなかった要因についての分析 (その他、関連情報に基づいた分析)
17	延べ利用者数はここ数年横ばいで、延べ利用日数は平成29年度と比べ半数程度になっているが、当事業は、障害者(児)の家族の入院等において緊急に短期入所の利用が必要な方に対する支援制度であるため、家族の状況によって変化したものである。

#### 【分析のチェックポイント】

- 事業の達成度はどうでしたか。
- 5W2Hを踏まえて、実施過程に問題はありませんでしたか。
- 資源投入は適切でしたか。
- 事前想定できない外的要因の影響はありませんでしたか。
- 事業の有効性は高いですか。低いですか。